

小学校での宿泊型自然教室における教員の指導に関する質的研究

—児童への期待像及び関わり方の意図に着目したケース・スタディー—

岩坂 菜月 (東京学芸大学)

1. 目的

本研究の目的は、A 小学校の自然教室に参加した担任教諭 3 名に焦点を当て、教員の具体的な指導行動における意図を明らかにすることである。この目的を遂行するために以下の 2 つのリサーチクエスション (研究論点: RQ) を設定した。

RQ1: 自然教室で、教員が期待する児童の姿はどのようなものか。

RQ2: 教員は活動場面で、どのような意図をもって児童と関わっているか。

2. 研究方法

1) 対象者

A 小学校の自然教室を研究対象とし、担任教諭である 3 名の小学校教員を研究対象者とした。

2) 調査方法

参与観察によるフィールドノートの記録や研究対象者に半構造化インタビュー (1 人当たり 30 分程度) を実施し、データを収集した。

3) 分析方法

上記のデータについて、2 つの研究論点に基づき、セマティック分析 (カテゴリー分析) を行い、得られた結果を基に結果図を作成するとともに、ストーリーライン (考察) を加えて検討した。

3. 結果と考察

収集したデータを研究論点 (RQ) に焦点をおいて検討した結果、以下の通りとなった。

1) RQ1 について:

教員が児童に期待する姿として、「集団として」「自主性」「活動に対して」の 3 観点が生成された。

2) RQ2 について:

児童と関わる際に教員が意図していることとして、「児童を中心においた関わり」「必要な指導の徹底」「スムーズな運営」「活動に対して」の 4 観点がみとれた。

4. 結論

1) 要旨

自然教室において、教員は児童にいくつもの期待をしていた。活動の際には、様々なことを意図して児童と関わっていることが明らかになった。

(1) RQ1 について:

教員が児童に期待する姿として、「集団として」「自主性」「活動に対して」という 3 つの観点が見出された。各観点に付属する要素は以下の通りである。

- ① 集団として: 協力、役割、我慢、きまり・規範
- ② 自主性: まわりを見る、自己判断
- ③ 活動に対して: 楽しむ、自然とのふれあい、体験・経験

(2) RQ2 について:

児童と関わる際に教員が意図していることとして、「児童を中心においた関わり」「必要な指導の徹底」「スムーズな運営」「活動に対して」の 4 つの観点が生成され、以下が各観点に付属する要素であった。

- ① 児童を中心においた関わり: 気づかせる、考えさせる、児童の自力解決、児童の尊重
- ② 必要な指導の徹底: 安全管理、教える、是正
- ③ スムーズな運営: 時間への意識、児童の並べ方
- ④ 活動に対して: 事前学習の活用、自然教室後への継続、体験

2) 研究の制約と今後の課題

本研究は、A 小学校における自然教室を対象とし、研究対象者も限定されていたため、他の小学校でのケースを検討する必要がある。

5. 主な参考文献

- 1) 西條剛央 (2007) ライヴ講座・質的研究とは何か SUQRM ベーシック編: 研究の着想からデータ収集、分析、モデル構築まで, 新曜社
- 2) 木下康仁 (2003) グランテッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い, 弘文堂